

モモの病害虫の発生状況（5月） 調査地点：福島地域9園地、伊達地域9園地

(1) モモせん孔細菌病

春型枝病斑の発生ほ場割合は、5月上旬、下旬ともに平年よりやや低い状況でした（図1）。

新梢葉での発生ほ場割合（5月下旬）は、平年よりやや低い状況でした（図2）。

今後の気象経過によっては、発生が急拡大するおそれがあるため、発病部（枝、葉、果実）のせん除を徹底するとともに、本病の発生が多い場合は、仕上げ摘果後、直ちに袋かけを実施しましょう。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけましょう。

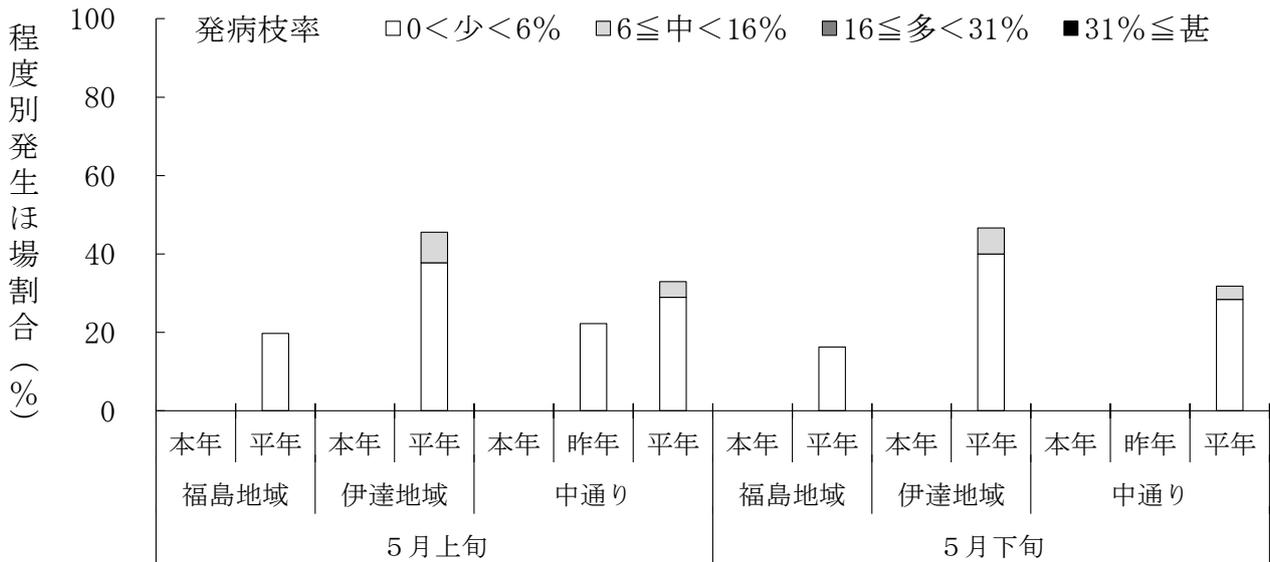


図1 モモせん孔細菌病の春型枝病斑の発生状況（5月上旬、中下旬）

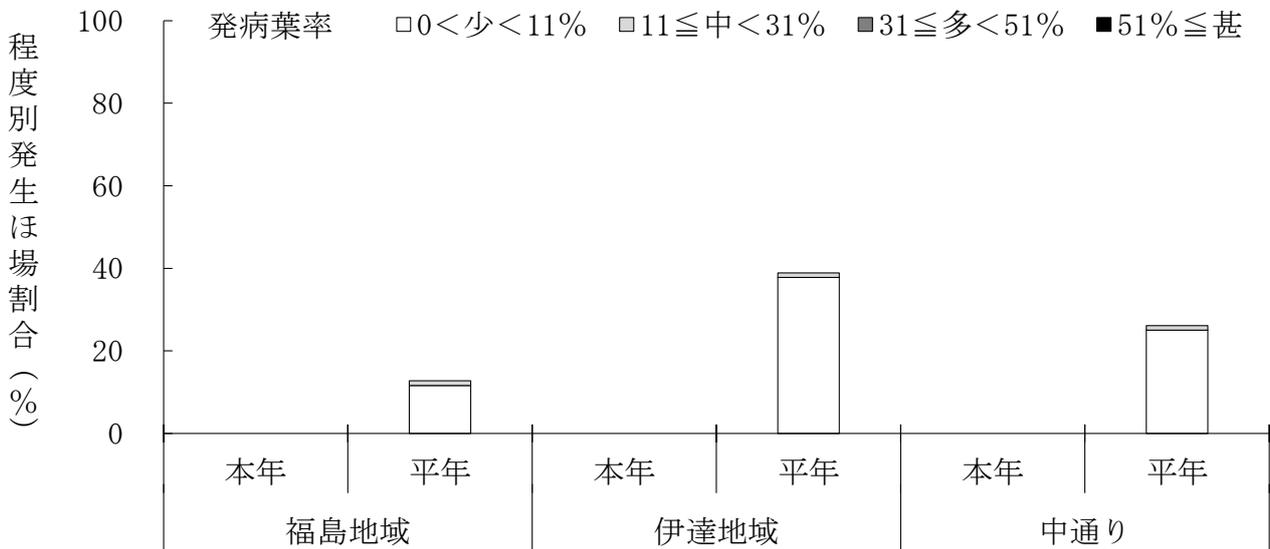


図2 モモせん孔細菌病の新梢葉での発生状況（5月下旬）

(2) モモ灰星病

5月上旬の「あかつき」での花腐れの発生ほ場割合は、平年（0%）より多い状況であり（図3）、参考ほ場の県南地方においても発生が確認されています。

本病による枝枯れは見つけしだいせん除し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう（令和6年5月9日付け令和6年度病害虫防除情報（モモ灰星病）参照）。

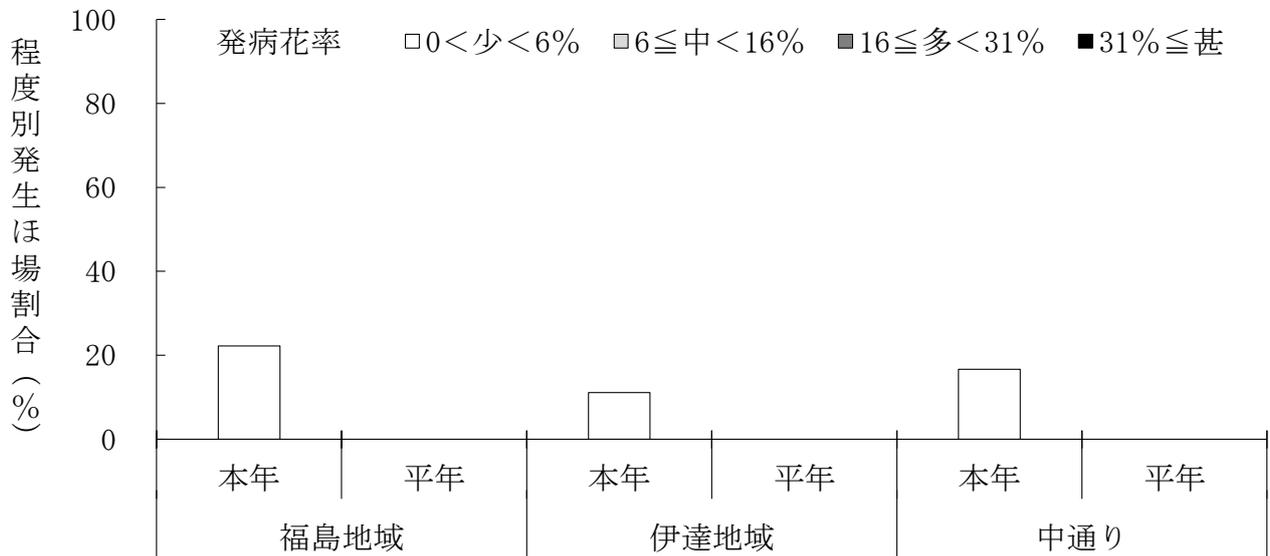


図3 モモ灰星病の花腐れの発生状況（5月上旬）

(3) モモハモグリガ

新梢葉での発生ほ場割合は、平年並の状況でした（図4）。

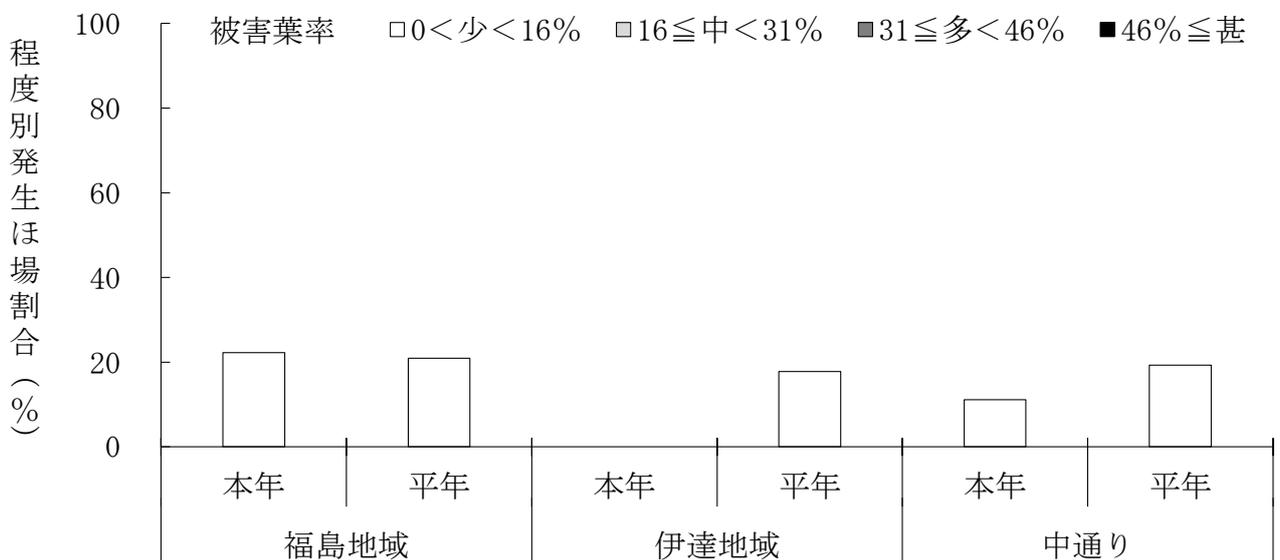


図4 モモハモグリガによる新梢葉の被害状況（5月下旬）

(4) アブラムシ類

新梢への寄生は、確認されませんでした。

(5) ハダニ類

新梢葉への寄生は確認されませんでした。

(6) シロカイガラムシ類

5月下旬の発生ほ場割合は、平年より高く、一部では寄生程度の高いほ場も確認されました（図5）。

シロカイガラムシ類の1種であるウメシロカイガラムシは通常年2回発生します。第1世代幼虫の発生期は、平年で5月中旬から6月上旬で、この時期が防除適期となります。第2世代幼虫は、平年で7月下旬から8月中旬になりますが、この時期はモモの収穫期であるので、防除を行う際は、薬剤の選択（収穫前日数）に注意しましょう。

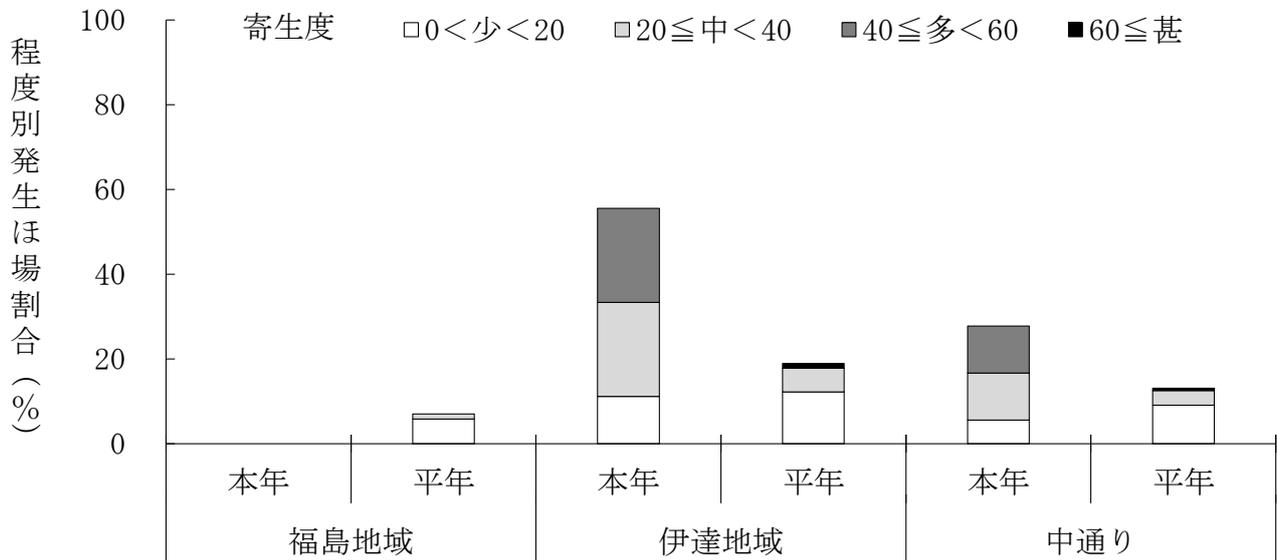


図5 シロカイガラムシ類による側枝の寄生状況（5月下旬）

(7) 果樹カメムシ類

5月上旬のモモへの飛来調査では、福島地域において、クサギカメムシの越冬世代成虫の飛来が平年より多く確認されました（図6）。5月下旬の果実調査では、伊達地域において、果実被害が確認されました（図7）。指標植物（サクラ）への飛来は、石川町でクサギカメムシおよびチャバネカメムシを確認しました。

越冬世代成虫による加害は、幼果期から始まるため、特に山沿いの園地ではよく観察し、飛来を確認したら速やかに薬剤防除を実施しましょう（令和6年5月9日付け病害虫防除情報（果樹カメムシ類）参照）。



図6 クサギカメムシの主枝への寄生状況（5月上旬）

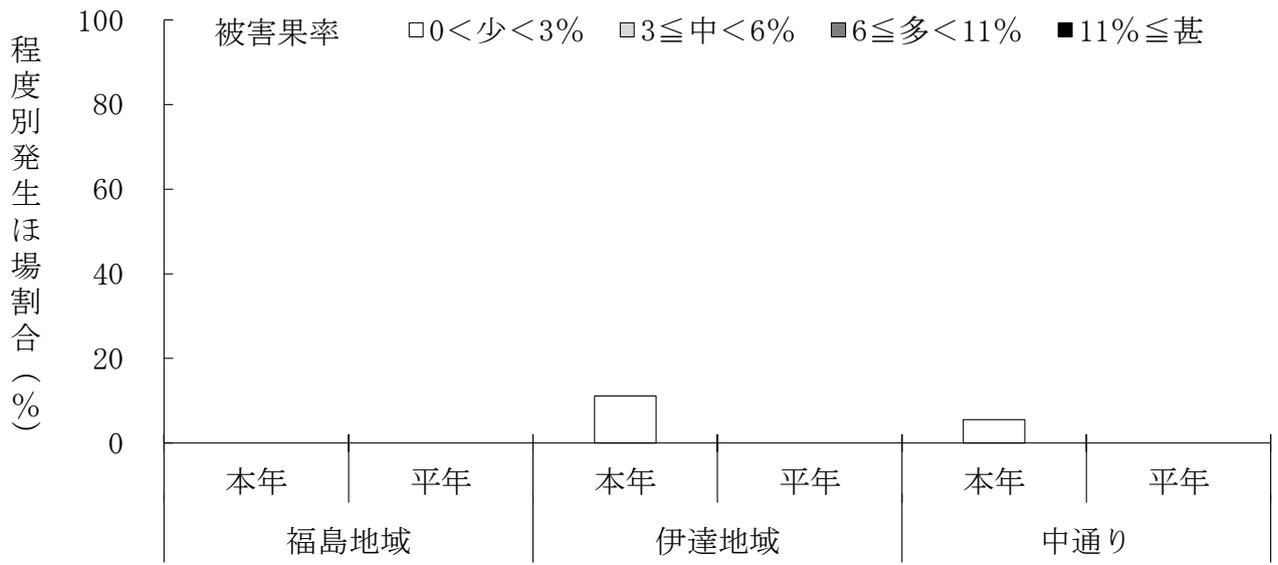


図7 カメムシ類による果実の被害状況(5月下旬)